

「神の絶大な恵みへの最高の応答」

ローマ12：1

堀田修一 24・5・12

壮大で深い真理のローマ人への手紙の1章～11章は、神・罪・救い（選び・義認・聖化・栄化）の教理、神のあられる恵み、あわれみが語られています。12章から16章は、1章～11章までに述べられた神の恵み、あわれみへの感謝の応答、生活への適用です。これまで主の福音に現わされた神のあわれみの救いの奥義を語り尽くしたパウロは、今や、その溢れる恵みに感謝しつつ生きる生活を語ります。主の福音を信じ、救いの恵みに押し出されて生きる、恵みへの感謝から生み出される歩み、それが神に喜ばれるキリスト者の歩みです。律法主義の重い、強制された喜びのない信仰生活ではなく。「一人ひとり、いやいやながらではなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は、喜んで与える人を愛してくださいます」（Ⅱコリント9：7）。主の恵みに感謝し神を礼拝し人々に仕える人々の集まりである教会を神は祝福されます。証し。本日のみことばで、最も大切な神との関係（真の救いと平安と安心をいただける関係）における信仰生活の原理が語られます。

I 「ですから」。この接続詞は、非常に大切です。これまで述べられたことと、これから述べることを接続する大切な言葉。聖書の中で「ですから」（therefore）ということばに出会ったら、常に特別の注意を払うべきです。ある目的の「ために」（for）そこに置かれている（there）のですから。この接続詞は、パウロの手紙では極めて通常です。エペソ前半の3章は、神の恵み・教理の部分。後半4章から恵みへの応答、適用。3章と4章の接続詞は、原語では、ウーン＝「ですから」。コロサイ1章から2：5までが神の恵み、教理。2：6から恵みへの応答、実践。その接続詞の原語は、ウーン＝「ですから」。

II 「私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます」：1。パウロは、神に喜ばれる生活を勧めるにも、「神のあわれみによって」とまず語ります。それほど、私たちの存在自体、そして、素晴らしい救いをいただいていること自体が奇跡的な神の先行的な深いあわれみによります。私たちは、ただただ神のあわれみによる存在です。この「神のあわれみによって」は、11：32の「すべての人（ユダヤ人も異邦人も区別なく）をあわれむ（救う）ためだったのです」の真理とつながっています。パウロは、この「神のあわれみ」によって生きる生き方について、もはやユダヤ人・異邦人の区別なく、親しく語ります。

III 「あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい」：1。
1. 「すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るのです」：36とあるように、神との関係（主の十字架の恵みによる赦し、和解、平安、安心できる関係）こそ、私たちの全ての関係の土台。それ故、パウロは、神と私たちとの関係を定める内容を12：1，2で述べ、わたしたちのからだ（命、からだ全体、魂）は、主の十字架の血で贖われ（永遠の滅びから買い戻され、救いの神のものとなった）、自分たちのものではないのだから、自ら進んで、「あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい」と勧められます。本物の救

い、回心は私たちの人生を変えます。証し：私も皆さんも。この真理が 12 章で明白にされます。律法には人生、考え方、心を変える力は全くありません。もし、主への信仰による救い、新生にあずかっているなら、あなたも徹底的に主の似姿に変えられ続ける共同体、主のからだなる教会の一員です。

2. 「神に喜ばれる」の意味。原語：神に気に入られる、神に喜ばれる、好ましい。私たちは、主を信じていても罪と欠点の多い不完全な者です。しかし、神は、主を信じ神に立ち返った私たちの存在を喜んでおられるのです。今年度の目標「キリストの愛にとどまる」のキリストの愛とは、「私たちの存在そのものを受け入れ、喜んで下さる愛」です。罪が残っており不完全な自分にもキリストの義の衣が着せられ、神が喜ばれ、受け入れられている存在と信仰をもって認め自分でも自分を受け入れて、自分自身を神に献げて歩みましょう。そうするなら、やがて来られる主の再臨の日に「よくやった。良い忠実なしもべだ。…主人の喜びをともに喜んでくれ」（マタイ 25：21）という主の御声を聞くことができます。

3. 「聖なる」。原語：神に聖別された。主の十字架の血で聖められ、神のものとして聖別、取り分けられた。私たちは、主の十字架の恵みを信じるときに、罪赦され、贖い＝神のものとして買い戻され聖別されるのです。そして、日々、内住の御聖霊により、実際に聖められ続けています。聖別されていない賜物、能力による奉仕は、神ではなく自分に栄光を帰し神に用いられない。逆に、ずば抜けた賜物、能力がなくても謙遜で聖別された奉仕は、神に豊かに用いられます。

4. 「生きた」。「肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生れた者は霊です。あなたがたは新しく生まれなければならない」（ヨハネ 3：6, 7）。主を信じ心にご聖霊が宿られ、新しく生まれた＝生きた者として自分を神にささげる。神の前に新生がなく生きていない肉の奉仕がささげられても神は用いられない。逆に新生し、謙遜な器の奉仕は神に喜ばれ用いられます。50 年で見た証し。

5. 「ささげ物」。原語：供えられるいけにえ、供え物。「愛のうちに歩みなさい。キリストも私たちを愛して、私たちのために、ご自分を神へのささげ物、またいけにえとし、芳ばしい香りを献げてくださいました」（エペソ 5：2）。主は、私たちを愛し私たちの救いの為に、自分を捨て、私たちが負うべき十字架（全人類の数えきれない罪への刑罰）を身代わりに負い、十字架で死なれました。その主が私たちに語られています。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしに従って来なさい。自分のいのちを救おう（献げず握りしめる）と思う者は、それを失い、わたしのために自分のいのちを失う（神にささげる）者は、それを救うのです」（ルカ 9：23, 24）。証し。

IV 神のあふれる恵みへの私たちの最高の応答は礼拝

1. 神の驚くべき恵みあわれみに感謝し、自分自身を神に献げなさい→「それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です」：1。「ふさわしい」の原語＝「理に適った」の意。神は私たちを創造して下さり、御子キリストの死によって私たちを罪から贖って下さいました。そして、御聖霊により私たちが新生させ主に結合し生きる者とされ、私たちが心から愛し、配慮をもって守ってられます。神が下さるこれらの全ての恵みへの応答として、神を愛し、神を礼拝することは、まことに道理にかなっています。

2. 神の恵みへの最高、最適な応答は、「心から神の恵みに感謝して自分自身を神にささげる献身の礼拝」です。神が喜ばれる個人的な神への礼拝、交わりの時をディボーションと言います。ディボーションという英語の直訳は、「献身」です。神が喜ばれるキリストの体なる教会（「あなたがたは、その宮（神殿）です」Ⅰコリ3：17。神殿の中心は礼拝）としての礼拝も神の恵みに感謝して、自分自身をささげる献身の時です。神の臨在に満たされた礼拝から恵みを受けます。教会全体で祈られつつ語られる説教でも恵みを受けます。私たちは、これまでとこの一週間の恵みに感謝して礼拝（自分自身）を献げます。神に感謝して賛美をささげ、説教を全身全霊をかけて聞く態度、心をささげ、感謝しつつ献金（献身の印）をささげます。「まことの礼拝者たちが、御霊と真理（みことば）によって父を礼拝する時が来ます（イスラエルに限定されず全世界で）。今がその時です。父はそのような人たちを、ご自分を礼拝するものとして求めておられるのです」ヨハネ4：23。神は、私たちが、心から神を礼拝することを最も喜ばれます！